

「山王中学校生徒指導通信」～「志」が宿り、「いかに生きるか」を考えるために～

『命の山王』

No. 4 [2018年 5月 2日(水)]

悔しさは次へ向かうエネルギー

今日は、連休の前半は春季大会そして明日から後半という、ポツカリと空いたような一日でした。さすがに連休ボケというか、学校生活に乗り切れていない生徒もいたように思います。連休後半も安全で健康な生活をしてくれることを期待しています。

さて、春季大会が終わりました。それぞれに、満足のいく結果を残せた部活もそうではない部活もあったことと思います。中総体が本番ですので、ここで考えてほしいのは「どれだけ悔しかったのか」ということだと思います。私は以前から「悔しさは次へ向かうエネルギー」だと思っています。

オリンピックの金メダリストだろうと、世界一のスーパープレイヤーだろうと、自分の試合やプレイに悔しさを感じなかった人はいないはず。むしろ、悔しいからこそ次にそれを克服してやろうと思うからこそ、その上のレベルのプレイや高い技術を習得するのだと思います。その瞬間悔しいと思っても、すぐに忘れてしまったり、自分以外の誰かのせいになり、あるいは、悔しいと感じても何も努力しなかったりするのであれば、当然自分を変えることはできないと思うのです。

今回の春季大会でよい結果が出た部活や個人でも、改善すべき点や悔しさを感じる点はあったと思います。まして、思うような結果の出なかった人は尚更です。それをいかに克服するか、と具体的に考えて実行することが次の目標をクリアすることになると思います。自分に足りないもの、必要なものが何か、今こそ真剣に考えることが大切だと思います。

吹奏楽部が昨年秋に管楽合奏コンテスト全国大会で東京へ行った際に、昨年の夏の甲子園大会で優勝した花咲徳栄高校で練習させていただきました。その時にその練習会場の壁に大きな文字で「日本一の努力をしよう」と書かれていました。努力には限りがありません。自分では頑張っているつもり、ではまだ不足しているのだと思います。「日本一の努力」とはどんなことか、考えてみてほしいと思います。

〔生徒指導主事：木内記〕

「若人山王精神」物語その2

今回は山王中の先輩の活躍についてです。明後日の午後1時30分から県民会館で、埼玉栄高校吹奏楽部の特別演奏会が行われます。埼玉栄高校吹奏楽部は日本一といっても言い過ぎではないほどの、高校トップバンドです。そのスーパー高校生軍団を主将(部長)として、1stトランペット奏者として、率いているのが、山王中卒業生の菊地楼音璃(ろり)さんなのです。今回は高校2・3年生を中心に120人ほどの部員が演奏します。日本一のサウンドをぜひ聴きにおいでください。入場料は1,000円で、当日券もあります。(山王中吹奏楽部も少しだけ一緒に演奏させていただきます。)

この1ヶ月の学校生活から

5月に入りました。この1ヶ月の生徒の様子を見ていますが、昨年よりも登校時間が早くなって、とてもよいと感じています。8時過ぎにはほとんどの生徒が登校完了して、竿燈広場は閑散としています。ご家庭の協力の賜物と感じております。ありがとうございます。また、1年生のあいさつが定着してきているのを感じています。連休後もこの調子でいてほしいと思っています。